

新発見！！東久留米はごみだらけだった！

＜ごみの集計＞2024/11/24～12/23

プラスチックごみ：295ℓ

燃えるごみ：90ℓ

カン：55ℓ 不燃ごみ：100ℓ



僕が大好きな海を守るために、僕に何ができるかを考えました。

僕たちの住む東久留米には、落合川と黒目川というきれいな川が二つも流れています。この川は荒川に合流し、東京湾に流れていきます。私たちがごみをポイ捨てせずに、ごみを正しく処理をすれば、陸から川、そして海に流入することはないのではないかと考えました。

そこで、まずはじめに自分の住む町の現状を知ることになりました。黒目川の周囲を中心に十一月二十四日から一カ月間、平日は登下校時に、休日は黒目川岸でごみ拾いを行いました。燃えるゴミ、プラスチック、燃やせないごみ、カン・ビンに分けて一カ月のごみの量を集計してみました。左の写真は一カ月ぶんのごみです。

一カ月間ごみを集めてみた

きれいだと思っていた黒目川や、その周辺の地域には、想像以上のごみがありました。例えば黒目川の川岸には、いろんな種類のお酒やジュースの缶が沢山ありました。その近くにはたばこの吸い殻も多く散乱していました。また、公園にはお菓子のごみや、ペットボトルなどのごみが落ちていました。正しく分別できていないために回収されなかったごみがずっと放置されているものもありました。すべてのごみが、「偶然落としてしまった」だけではなく、「わざと捨てた」ごみが多かったのは明らかでした。僕は、拾っても拾っても新しいごみがまた増えていくことが悲しかったです。それでも毎日ごみ拾いを続けていくと、1カ月を迎える頃には、ごみが減ったと感じることができました。これはとても嬉しかったです。

今日から始められること

3Rを徹底しよう！

- ①Reduce（リデュース）ごみの発生を抑える
買い物袋やペットボトルはやめて、マイバッグ・マイボトルを持ってむだなごみを出さない！
- ②Reuse（リユース）再利用
一度使ったものをごみとして捨てずに、繰り返し使しましょう！
- ③Recycle（リサイクル）ごみの再生利用
ごみと資源はきちんと分別して出す！

ポイ捨てをやめよう！

あなたが捨てた一つのごみで、環境が破壊されていきます。東久留米をクリーンに、そして世界もクリーンにしていきたいと思います！

編集後記

ありがとうございました。

新聞づくりは初めてでしたが、自分の気持ちをしっかり伝えられたと思います。

最後まで読んでくれてありがとうございました。

また、僕の活動を応援してくれた友達や家族、市民の皆さんに感謝したいです。

これからも僕は東久留米から世界を守ります。

僕たちにできることを考えよう！

今、世界中でプラスチックが自然界に残らないように、さまざまな研究がされています。でも僕は、一人一人の行動や意識を変えていく方法で海や海洋生物を守りたいと思います。一カ月間ごみ拾いをして、習慣にするのは簡単ではないなと気づきました。「今日は拾いたくないな」と思った時もありましたが、僕一人では始めたごみ拾い活動を理解してくれる友達が増えて、登下校時に集団で活動することができました。また、ごみ拾いをしてしていると市民の方々から「ありがとう」「僕もやろうかな」と声をかけてもらったことで、ごみ拾いをしていてる僕の行動が、もしかしたら周りの意識を変えられるかも？と思いました。

ごみ拾い団結成！



黒目川を見るごみ拾い団



海に漂うプラスチックは、汚染物質とくっつきやすい性質があり、それを食べる海洋生物だけでなく、僕たち人間にも影響があると考えられています。海洋生物だけでなく、自分達を守るためにも正しい知識と自覚を持つて毎日を送ってほしいです。

なるべくごみを出さず、出たごみは正しく分別し、ポイ捨てはしない、これを一人一人が守れば、大きな力になり、東久留米だけでなく、世界はどんどんクリーンになっていくと思います。そのために、一緒に頑張りましょう。皆さんの力が必要です。力を合わせましょう！

このままでいいのか？海のごみ問題



外国からきたと思われるごみもあった



福岡の北の海で漁の網にかかったごみ

みなさんは、マイクロプラスチックを知っていますか？

マイクロプラスチックは、直径5mm未満のプラスチックごみです。プラスチックとは、スーパーのビニール袋やペットボトル、お菓子を包装している袋などに使われる素材です。そのプラスチックのごみが正しく処理されずに陸から川に流れ込み、そのまま海まで流れ出てしまいます。大きな波と太陽の光の影響で海の中で細かく砕かれてマイクロプラスチックになり、海の中を漂っています。これらは、細かくなっても自然に分解はされません。例えば、レジ袋は一年から二十年、ペットボトルは四百年かけてマイクロプラスチックになり、自然界に残り続けます。

海の生き物は、プラスチックをエサだと勘違いをして食べてしまいます。例えば、東京湾のカタクチイワシからも六十四個体中、四十九個体からマイクロプラスチックが検出されたというデータがあります。

世界のどの海でもマイクロプラスチックは発見されていますが、特に日本のまわりの海では、世界の海の平均的な量の約二十七倍のごみがあり、世界的に見ても大きな海洋問題を抱えています。



僕は今、さかなクン探求隊の一員として活動しています。隊長のさかなクン、十一人の隊員や東京海洋大学の先生、大学院生の方々と一緒に海や魚をテーマに研究をしています。

深海にいるミズウオという魚は、なんでも食べてしまう習性があります。実際に本当に魚はプラスチックごみを食べているのか？東京海洋大学内で、さかなクン探求隊員とミズウオの解体を行ったら、なんと胃の中からプラスチックが見つかりました。（左図）このように、人間が豊かに暮らすために作られたプラスチックは決して悪者ではないのに、正しく処理されずに存在するはずもない海に流れてしまうことで、海の生物が苦しんでいます。

アンケートご協力をお願い

皆さんにお願いがあります。

この新聞を読んでみて、感じたことや気づいたことをぜひ教えてください。右のQRコードを読み取ってアンケートにお答えください。皆さんのご意見を待っています。よろしくお願いします。



裏面へ続く

おびー新聞

号外

発行日
2025年
1月

編集担当

制作
東久留米市立神宝小学校
5年 おびー

お知らせ

僕と一緒に
東久留米から
世界を守りませんか？

